

岐大通 2013

2013 J.League Division2 第2節 水戸ホーリーホック 戦

8/18(日) 19:00~
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C 岐阜大好き通信(岐大通)

8/18号

編集発行:

『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest : 水戸ホーリーホック 2012 J2 15勝 1分 16敗 勝ち点 56:13位

関東リーグの強豪であった『プリマハムFC土浦』は1996年の地域リーグ決勝大会で優勝し、JFL昇格決定。全国リーグ参戦にあわせて水戸市で活動するクラブとの吸収合併という形でホーム移転を果たし、『水戸ホーリーホック』となる。第1回・新JFLは3位であったが、優勝した『横浜FC』がJFL“準加盟”状態であったため、“正会員の中で上位2チーム内”として翌年よりJ2参加となる。最高成績は2003-04シーズンのJ2・7位。(吉田鑄造)

前節、現在2位で首位争いをしている強豪・ヴィッセル神戸を撃破したFC岐阜。前回3/10アウェイ・ノエスタでの対戦では0-4と完敗した相手に、ホーム長良川で虎の子の1点を粘り強く守りきって勝ち点3を奪い、見事にリベンジを果たした。真夏の熱戦と歓喜の結果に、5118人の観客は(神戸サポを除けば)歓喜の渦に包まれた。強豪相手に今季初の完封勝利ができたことは、勝ち点もさることながら、選手たちの自信に繋がる、非常に大きな意味がある。大量補強した新戦力によって、チームの活性化が図られた結果が出てきたとも言えるだろう。

残念ながら他の下位チームも勝ち点を積み上げたため、最下位脱出とはならなかったが、これで2位・群馬とは勝ち点が並び、20位の北九州とも勝ち点差が2。10位の富山までは勝ち点差が6(つまり連勝・連敗で順位が変わる可能性がある)と、混戦状態の残留争いにしっかりと喰らいつけている。ここは、ホームでの連戦を連勝して、最下位を脱出する絶好のチャンスだ。神戸戦の勝利を無駄にしないためにも、何としても勝ち点3が欲しいところだ。さて、その対戦相手は水戸ホーリーホック。現在は10位(勝ち点40)と、十分にプレーオフ圏内を狙える位置につけている“J2在籍最古参”のチームだ。水戸との通算対戦成績は7勝3分3敗と、FC岐阜にとって相性の良い相手だが、ホーム戦では3勝1分2敗と辛うじて勝ち越している状況だ。また、“闘将”柱谷哲二監督体制も3年目に入り、チームも成熟してきている。事実、2011年は岐阜の2勝だが、2012年は1分1敗。前回5/19の対戦では、1-4と大敗している。全く油断できる相手ではない。

前回大量失点を許した相手だけに、今回の対戦では守備が重要視されるだろう。今季8得点を挙げている司令塔の#10MF橋本晃司や、同じく自己最多の8得点を挙げているベテラン#30FW鈴木隆行は、絶対に自由にさせてはならない要注意選手だ。ルーキーの#19FW山村佑樹や、前節2得点を叩き出した#28MF小澤司にも気をつけなくてはならない。これらの攻撃陣を、#35CB木谷が統率する岐阜のDF陣がどうやって無失点に抑えるのか、また、岐阜の攻撃陣が“ミスターホーリーホック”#1GK本間幸司の壁を崩して、どうやって得点を奪うのか、選手たちのコンビネーションが大きなポイントになるだろう。

また、この対戦では2組のベテラン対決も注目ポイントだ。1組目は、岐阜の#6MF服部選手と水戸の#30FW鈴木選手。2人は2002年の日韓W杯の日本代表。そして2組目は岐阜の#35CB木谷選手と水戸の#27CB富田大介選手。2人は、04年の大宮でのチームメイトだ。4人のベテランの活躍が、この試合を彩ることだろう。

前節の神戸戦は、これまでずっとスタメン組だった、#2MF杉山や#3DFデズモンド、#11MF染矢などを欠いたメンバーでの勝利だった。これで岐阜のレギュラー争いが激化するの間違いはないだろう。誰を先発で起用して誰をベンチに置くのか、システムは4バックなのか3バックで行くのか...嬉しい(?)悩みが増えた行徳監督の、選手起用やシステム・戦術の選択、選手交代などの采配にも注目したい。

今節も真夏のナイトゲーム。前節より試合開始が1時間遅いので若干は涼しいだろうが、それでも厳しい状況での試合になるだろう。しかし、ホーム長良川でリベンジを果たすためには、やはり最後まで走り抜いて闘うしかない。試合終了後の、歓喜の万歳四唱のために、僕らも最後まで選手たちに声援を送ろうじゃないか。(ささたく)

2013J2 順位表 第2節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て) 暫定順位

1	G大阪	60p	+30	59	29	A	H
2	神戸	56p	+20	46	26	A	H
3	千葉	50p	+19	45	26	H	
4	京都	47p	+19	48	29	H	A
5	長崎	47p	+4	32	28	H	
6	徳島	45p	+4	40	36	H	A
7	東京V	42p	+4	39	35	A	
8	札幌	41p	+7	38	31	A	
9	福岡	40p	+1	29	28	A	H
10	水戸	40p	-1	33	34	A	
11	岡山	38p	+4	31	27	H	A
12	松本	37p	-2	29	31	A	
13	山形	36p	+8	49	41	H	
*14	栃木	35p	-1	34	35	A	
15	横浜FC	31p	-6	26	32	H	
16	富山	30p	-10	28	38	H	
*17	愛媛	29p	-9	26	35	A	
18	熊本	28p	-15	30	45	H	A
19	北九州	28p	-9	32	41	H	
20	鳥取	26p	-19	26	45	A	
21	群馬	24p	-16	24	40	H	
22	岐阜	24p	-32	23	55	---	---

注: *表示は消化試合が1少ない

次回 HomeGame

第3節 東京ヴェルディ戦

9/1(日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23
tel:058-273-8998

【第2節】岐阜 1-0神戸

スタメン一覧を見た時、少し驚いた。出停の(杉山)新はともかくとして、中村(のちにケガと判明)もデズモンドも染矢もそして入団が決まったばかりのスティッペもメンバーに名を連ねていなかったからだ。「ターンオーバーやな」「水戸戦に勝つための施策とか」と半分真面目にサポ仲間と話していたほどだ。正直すいませんでした、深くお詫びいたします(笑)。

クロスバーやポストに救われたり、時久がかわされてがら空きになったゴールを新井が決死のクリアで守ったりと、多分にツキに恵まれた部分はあったが、要因はそればかりではない。ゴールを決めた木谷のヘッドは素晴らしかったが、個人的にMOMを挙げるとすればこの試合が入団後ホーム初お目見えとなったバージェかなと。ボールを受けると前線でタメが作れるし、リードした後は自分でドリブルで仕掛けるのかじっくりキープするのかどういふプレーをすればいいのかが分かっている。前線の選手がこういうプレーをしてくれれば、後ろの選手はグツと楽になるものである。

あとは樋口。積極的にシュートを打っていたし、走る量が多かった。昨年と同じ頃と比べると格段の違い。中村やバージェの加入でうかうかしていられないという気持ちもあるのだろう。あとはノエスタで中盤をいのようにやられたエステバンの不在も大きかったし、神戸のプレスが思ったほどキツイ感じではなかったように感じられたが。

神戸には勝ったものの、順位の近い他チームも勝利や引き分けたため順位は変わらず。しかしながら、新加入選手もチームにフィットしはじめ、期待を持たせてくれることは確か。まずは今夜の水戸戦に勝利し、反攻の狼煙を上げようではないか。(岐阜の誇り)

痛苦な自己批判とともに報告しますが、神戸戦のスタメンを知ったときに思ったことは「来週の水戸戦に向けての戦力温存...?」だった。新加入のスティッペはまだフィジカルが上がってないのかな、と理解も出来ただけで、ユーキ・ソメ・デズの不在は、この試合に対して「勝ち負け」で臨んでいるようには思えなかったのだ。ホントに、ホントに申し訳ない。マリアナ海溝より深く反省しています。攻撃面ではとにかくバージェの存在に尽きる。これまでの「FC岐阜はなぜ攻められっぱなしだったのか」の答が彼のプレーにあった。ご存知のように、FC岐阜はラインを押し上げて高いところでプレスをかけてボールを奪う守備戦術を採っていない。しかし、低い(自分の守るゴールに近い)ところでボールを奪っても、前に預けるべくロングパスを出したところでそこで競り合いに負けてボールを奪われてしまって再び守備がスタート。寄せては返し寄せては返しの連続攻撃を受け、ついには守備が破られる.....。こういうシーンを何度見て来たことか。

ところが、バージェは後ろから出されたボールを確実に2秒以上はキープしてくれる。サッカーにおける「2秒」。わずか2秒、と思わないでほしい。この2秒がFC岐阜の攻守にどれだけの効果をもたらしてくれることか。他の攻撃手はその2秒の間に攻め上がることが出来るのでバージェが後ろにボールを戻したとしても前を向いてボールの近くにいる岐阜の選手が多いのでパスの選択肢も多い。つまり攻撃を厚く出来る。守備陣はこの2秒の間は相手の攻撃が始まらないので陣形を整えたりマークする相手を確認することが出来る。攻撃の時間が長くなれば当然守備の時間は短くなる。つまり、「攻撃の充実が守備の軽減」というサッカーの試合では当たり前の光景が、ようやく長良川にも映し出されたわけだ。

神戸がアタマからガツガツ来なかったこともあって、前半は岐阜が主導権を握った。何度もCKを得る。前半のこの流れで獲れないとキツイよなあ...と思ってた42分、右からのCKをファーサイドで木谷が叩きつけてくれた。

でも、それで終わるとは思っていなかった。神戸も絶対に修正してくる、と。実際、後半開始からは神戸の出足も激しくなり、ボールを奪ってサイドに振っての岐阜サイドバック剥がし作戦。これを45分コツコツと続けられたら岐阜もキツかっただろうけど、なぜか神戸のこの攻撃は10分くらいまで。あとは「力づくでこじ開けてやる!」とばかりに中央に執着してくれたおかげで助かった部分はある。クロスバーにも2回助けられたしね。

岐阜の選手も疲れてきて、ポストプレーをするだけだと攻め上がる枚数が足りなくなってくると、バージェは受けたボールをドリブルで持っていこうとする。ホントに、「この状況でどんなプレーが必要なかわかっていてそれを具現化できる」選手だ。結局、神戸は岐阜の倍近いシュートを放つものの、新井の「G線上のクリア」もあって得点は奪えず、長良川に歓喜が訪れた。

FC岐阜、今季6勝目。ぼくはそのうち、ホーム長崎戦、ホーム北九州戦は実際にゲームを観た。アウェー鳥取戦はPVでリアルタイムで見た。でも、その3試合と明らかに違うのが「手ごたえ」だ。「今日は勝ったけど次はわかんないよな.....」ではなく「これでなんとかなるんじゃないか」という「手ごたえ」だ。今後も勝った負けたは続くだろう。でも、今年のこれまで見てきたFC岐阜を鑑みれば「勝った負けた」という視線で見られること事態が大きな変化だ。「層の厚さ」も含めた「戦力差」と、それによる「消去法の戦術」の中で、どうやって勝ち点を得ていくか、という状況からのポジティブな変化。世知辛い喻えになるけど、日雇いのバイトを探してなんとか毎日の糊口をしのいでいたのが「明日から毎日おいで」と雇い主に言われたかのような。ホントは、シーズン序盤でこの状態になってないといけないのだけど、それはシーズン終了後に総括すればいいこと。まずは今季をしっかりと闘って行こう。(吉田鑄造)

いや~、シビレた! やっぱ、1-0の試合は最高だね。ゾクゾクするよ!!これは、真夏の夜の夢? いや、そうではないでしょう。ユーキが不在(ケガらしい。心配)なのには驚いたし、デズモソメもサブにもいない。それでも、勝っちゃうメンバーが揃ったということ。いつ、勝つの? 今でしょ? 的な。どっちかという、神戸サポさんにとっては「ナイトメア」だったでしょうか? でも、第2節ノエスタでの試合を基準にしてたら大間違い。最下位とはいえ、J2はそんなにラクなカテゴリーじゃありませんから。試合後のインタビューで木谷が「ジャイアントキリングとは思ってません」と冷静に答えてくれたのが、ホントうれしかった。こういう気持ちが大事だと思います。そうじゃなきゃ戦えないということでしょう。異論はあるでしょうが、ボクは神戸が格上とは思ってません。ウチも神戸もJ2ですから。もちろん、神戸には歴史も実績もウチよりあります。ただ、昇格前に4-4の撃ち合いをやった鳥栖とかの後塵を拝して降格してきたワケですから。少なくとも臆する必要はない。「勝つためにここにいる。」ということですよ。といっても、ジャイアントキリングだろうが下剋上だろうが神戸に勝ったのは素直にうれしい。アウェイでの雪辱ができましたから!

そして、岐阜は今季初の無失点勝ち。前半リードして折り返したのも初めて。CKが7本というのも記憶にない(その分、後半はゼロでしたが)。とても、圧倒的に攻めたとは言えませんが、キチンと戦えた証でしょう。得点の時間帯も言うことなし、いつもやられてる時間帯です(苦笑)。いい流れで後半を迎えたと思ったら、開始早々の樋口.....。決めてくれ.....。その後のミドル2本。こいうのが決まらなないと流れるにはアチラに.....と思ってたら案の定、でした。怖かった。それでも、バ一樣やポスト様に助けられ、シュートミスに救われ、そして何より時久が交わされたの

【ユース】G1リーグ、再開です

にゴールマウスに鍵を掛けたのが新井……って辺りに「コレは勝てる流れ」と手応え感じました。だって、普通GKが交わされたら決められるでしょ？よしんば、味方の選手がゴール前にいても、それは背の低い選手で、シュートに反応しても頭上を抜かれて失点というのがお決まりのパターン。それが、アノ場面で出場選手の中で最長身の新井が残ってたっていうのがね。

ホント、みんなよくやってくれました。特に木谷と新井のCBコンビは格別の働きかと。ノエスタでの試合で鮮やかなボレーを始め、好き放題やられた感のある田代に、前半開始早々に一本危ない場面はありましたが、ほぼ何もさせませんでした。彼を始め神戸の選手全員の動きが重かったようにも見えましたが、逆にそれは岐阜の選手が相手を自由にさせなかったと言えるのではないのでしょうか？繰り返しますが、みんな最後まで戦い抜いてくれました。ただ、ひとつだけ苦言を呈するとすれば、終了間際のケインの選択。あの場面はキープしてほしかった。1点差でよいのです。誰かが走っていたとは思いますが、あの時間帯のシュートやパスは120%の確率でゴールとなるものでないと。能力の高い選手に持たれたら一瞬で……と、なりかねません。もちろん、がんばっているのはわかりますし、期待もしています。ただ、いつのまにかレベルの高いポジション争いをするようになったウチのFW陣。初シュートが「初ゴールのユーキやインテリジェンスのあるプレーをするバージェと強力なライバルがいるワケですから、監督の期待、観客の期待に応えるようなプレーを見せてほしいですね。それにしても、ユーキがケガって聞いた時はどうなることやら……と思ったけど、その不安を補って余りある活躍でしたね>バージェ。岐大通にもズーッと書いてきたけど、ようやく愛と優しさが溢れ出たパスというか落としが出来る選手が現れました。まさにポストマン。ボールを味方に、丁寧に正確に届ようとする姿勢を感じました。特に、後半の胸で樋口に届けたパスには震えました。この日のMOM(マン・オブ・ザ・マッチ)は木谷でしょうが、これからも楽しませてくれそうです。

しかしながら、こんな感動的な勝利を挙げたにもかかわらず順位は変わらず。大事なのは次の試合。対戦相手の水戸には、アウェイで神戸戦同様4失点。点の取られ方は神戸戦以上に滅入るモノばかりでした。是が非でも勝ちたい相手です。水戸戦が終われば北九州、千葉とのアウェイ連戦。水曜と日曜のナイトゲームと非常に厳しい日程です。勢いをつけるためにも、神戸戦同様のプレーを期待しています。もちろん、最後まで共に戦います！(ぐん、)

我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は夏休み期間中も遠征やTMに動んでいるようです。それもこれも8月末から再開されるG1リーグと秋のJユースカップの為。G1リーグ残留とJユースカップでの勝利目指して頑張って貰いましょう！

次戦はG1リーグ第11節の帝京可児高校Bチームとの対戦です。場所は中池陸上競技場で8月31日(土)9時45分キックオフ。前回の対戦では5対1と惨敗を喫しましたので、今回はFC岐阜ユースの選手達の奮起を期待しています。そして良ければ現地で応援してやって下さい。勝利を目指せ！応援しているからな！！
FORZA! FC岐阜ユース!! (シュナ)

【セカンド】国体決定！次は天皇杯！

今年の国民体育大会の東海地区予選が8/10~11に静岡県磐田市で行われ、FC岐阜セカンド(以下「セカンド」)のメンバーで構成されている岐阜県選抜は、10日に愛知県に2-0で勝利、1日の決定戦では静岡県を相手に延長の末1-0で勝利。「東海地区で1つの枠」をゲットしました。

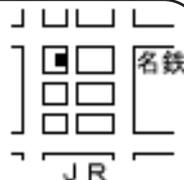
セカンドの次の目標は天皇杯の県代表です。天皇杯岐阜県予選を兼ねた「岐阜県サッカー選手権」は、今日(18日)にセカンド対岐阜経済大(大学1位)の対戦が行われ、勝った方が帝京大可児高(2種1位)対NK可児(社会人2位)の勝者と8/25に長良川球技メドウでの決定戦に出場します。県代表になると、本大会1回戦は9/1(日)の13:00から、大阪府代表(関西大と大阪体育大の勝者)との対戦が同じく長良川球技メドウで。これに勝つと、2回戦は9/8先日開催された『東アジアカップ』で優勝を遂げた日本代表の柿谷・山口・扇原を擁するセレッソ大阪との対戦になります。(吉田鑄造)

 Living in Woods

本庄工業株式会社
<http://www.honjp-woodream.com/>

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休：月曜(定休日が変わりました！)



ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

